

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1175100898		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	新座グループホームそよ風		
所在地	埼玉県新座市堀ノ内1-3-32		
自己評価作成日	令和 4 年 3 月 23 日	評価結果市町村受理日	令和 4 年 5 月 17 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	令和 4 年 3 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度も、コロナで外に出られなかった1年でしたが、各ユニットごとに、体操や個別の運動、レクリエーション等で日々が楽しく過ごせるように対応して参りました。食事のレクリエーションも引き続き行い、一緒に作る機会も増えました。身の回りのことを、皆さんそれぞれにできる範囲で頑張ってもらって、体を動かすことを続けることで健康に過ごせるように意識して関わっています。面会が思うようにできない状況であるため、生活の様子や医療面のこと、認知症の変化等を毎月ご家族様に「そよ風たより」として送って確認して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、一人ひとりの利用者のできること、できないことを見極めて声かけをしている。そのことで、利用者は生活の中で「役割」が持て、その人らしい自立した生活を送ることができる。職員が洗い終わった洗濯物を持って来ると、自ら手伝いを始めてくれる利用者、裁縫が得意で、他利用者のボタン付け等をおこない感謝されている利用者など、一人ひとりが生活者として「役割」を持って暮らしている。また、日々の作業を身体機能低下予防につなげる取組をしている。自分自身の体重を支える力の維持は、歩行維持につながると考え、利用者の状態に応じて、食器拭きなど立ってできることは、立って実施してもらっている。個人の身体状態に応じて、立ち座り等の体を動かすことを継続しているので、コロナ禍でも、利用者の身体機能低下が少ないという好事例が見られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念である「世界一のしあわせ創造企業を目指す」ことを踏まえて、事業所としても、皆が幸せに過ごせる環境作りに向けて取り組んでいます。	理念は、玄関と各階の事務所に掲示し、ユニット会議時や管理者が個別に伝えている。管理者は、介護記録や申し送り記録、利用者の生活の様子を見て、理念が支援に反映されているか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの関係もあり、地域との関係はとれていない。地元のスーパーから食材は宅配してもらっている。保育園との交流も行えなかった。町内会のメンバーに加えて頂いたので、ともに協力し合えるように今後発展させていきたい。	地域情報は、定期的な会報で把握している。コロナ禍のため、地域交流を控えており、以前交流のあった保育園とは挨拶を交わすことを続けている。また町会長には、機会のある毎に事業所情報を伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に、管理者が介護相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年も書面で活動内容を見てもらうにとどまった。	事業所の運営報告等を記載した議事録と共に、利用者の生活の様子が分かるように、写真撮影し、資料として添付している。意見は、書面やメールで受け、活動に対する質問や職員募集に対する意見をもらい対応した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年は関りはほとんどとれていない。マスクや消毒薬の配布があった際に簡単な状況報告を行った。	市とは、メールや電話、訪問により連絡を取り合っている。空室情報は、地域包括支援センターにも伝えている。市主催のインターネットを活用した研修等にも随時参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアの実践に向け、研修を定期的に行い、職員の意識を高めている。玄関に関して、車の往来が多いため、施錠を実施している。	研修では、何が拘束に当たるのかを繰り返し伝え、現在の事業所状況に合わせた内容としている。管理者は、各フロアを回り、利用者の様子や職員の話聞き、アドバイスや注意喚起している。利用者の居場所作りをすることで、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議において研修し、意識向上に努めている。また、職員のストレスコントロールにも注意し、アンケートや日々の会議等で気づきにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度についての理解を深める機会の確保が十分でなかった。研修機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に、丁寧な説明を心掛けている。質問疑問等がある際は、いずれにおいても、電話及び来訪時に説明し、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からは日々の聞き取りを通して。ご家族様は行事等へ家族来訪の際、運営推進会議を通して意見を吸い上げ、運営に活かせるよう会議を中心に職員に落とし込みをしている。	職員等は、頻回に電話で利用者の様子を家族に伝えている。会話中、家族が謝罪の気持ちを持たないように、言葉を選び意見を聞いている。掃除等について意見があり、掃除チェックシート等を活用して取り組みをした。	令和3年度は、新規入居者が増え、家族との関係もこれから深めていくと考えられる。様々な手段を活用して、家族等の意見等を取り入れ、運営に反映していくことを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議へ参加し意見の聞き取りを行っている。また、日々の中でも職員個々から意見を聞き、実践できるものから取り入れるようにしている。	管理者自らが、まんべんなく職員に声をかけて、意見を聞くようにしている。業務内容等の変更は、フロア毎に職員で話し合い、備品購入や修繕については、所属事業部に相談する仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を中心に職員の評価を行っている。また、適宜アドバイスをし、モチベーションにつながる働きかけも行っている。給与に関しても、最低賃金の変更に合わせて個々の能力に応じて見直しを行った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のスキルに関して、一覧表を用いて把握に努めている。後任の管理者を育成するための社内、社外研修に参加させることができた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年はほとんど何も行えておらず、センター内の職員の意見交換が主だった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の段階で、その方の情報の聞き取りに努めている。また、本人と関わりを持つ中で、思いを聞きだし安心できる関係づくりに力を入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に、家族の思いの聞き取りを行っている。また入居後は、入居者様の生活の様子を報告し、不安の解消に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活歴等の聞き取りを通して、出来る限り今の生活と違いが出過ぎないように配慮している。また、段階に応じ、他のサービスの利用もできるよう必要な情報をお伝えしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を意識し、できることは自分で、できないことはさりげなく支援するよう取り組んでいる。個々の主体性を尊重できる体制作りにも、意識して取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様、ご家族、職員とがともに関わりを持つ時間を、行事への参加を通して行っている。ともに支える意識を持ってもらうために、状況報告は細かく行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はもちろん、親族や友人の来訪を通してなじみの関係の維持に努めている。なじみの場所への支援は十分に行えていない。窓越し面会が中心だった。	家族に「生活シート」を記入してもらい入居前の人間関係等を把握している。面会は、窓越し電話によるが、推奨している。年賀状等を書くことや電話の取りつぎ、携帯電話を持っている利用者には充電等の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の楽しみや役割を共有して頂くことで、自然に交流ができるよう働きかけている。個人の時間を過ごしたい方への配慮も行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の際に、困りごと等へのご相談はいつでも連絡下さいと伝えている。また、時間のある時は、雑談でも構いませんのでお越し下さいとも伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々人の意思を聞き取りし、職員間で共有している。意思表示の難しい方は、以前までに話していたことや、表情等から探り出すよう努めている。	チラシ等を使い具体的に話をするようにし、居室や入浴時に聞くことも多い。言葉での表現が難しい場合は、選択するものを利用者に見てもらい、職員が表情等で察した結果を、ユニット会議で共有し、支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族やご本人から聞き取りし、記録に残している。入居前の利用サービスについて、CMやSWから聞き取りも行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々が何をして過ごせているか、把握に努めている。申し送りでの情報共有を丁寧に行うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月会議を開催し、個々の状況把握に努め、ケアプランに反映するよう心掛けていく。ご家族にも説明し、思いや意見の聞き取りを意識して行っている。プランの内容については、改善していく部分もあり。	計画作成担当者が毎月モニタリングをおこない、医療職等の意見等を参考に作成する。欠席の職員の意見は、事前に文書で聞く。毎月計画を振り返ることで、課題や支援内容を見直して、現状に合った計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいたケア記録の記入を心掛けているが、職員により力量は様々である。また申し送りノートの活用が足りず、個々で情報を持っていることもあるため、情報共有を再度意識してもらおうよう促していく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状の職員体制においては、既存のサービスの範疇を超えて支援することは難しい。ただ、ご家族様の要望には、出来る限りは答えようと努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	春は保育園でひな祭り、児童センターでの花見。夏は近隣スーパーで涼みながら買い物。秋は平林寺で紅葉見学等、地域資源の有効活用に努めている。(通常の場合)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望に応じ、かかりつけ医を継続利用して頂いている。受診に関しては、ご家族様の協力を仰ぐことが多い。	内科と精神科の医師が訪問診療医となっている。家族に診療結果を伝え、医師と直接家族が話すこともできる。通院は家族対応のため、利用者の様子は、家族に口頭で伝えると共に、文書も作成して医師と情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の利用はできていない。往診先の看護師と情報共有につとめ、適宜相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のムンテラに参加し、意見交換を行っている。電話連絡で入院中もその方の情報把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	センターで対応できること、他の施設で対応できること等、細かな面でも説明を重ね、本人や家族にとって一番良い形での終末が迎えられるよう対応している。その為に、医師との連携も大切にしている。	契約時、指針に基づき説明をしている。訪問看護の利用が無いため、終末期の対応はおこなっていない。他施設に移る場合は、医師と連携しながら家族の相談に乗り、施設等も一緒に探している。転居先の施設等には、文章や口頭により利用者情報を伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応方法については、口頭での指導が中心。対応できる職員のばらつきがあるため、会議を中心に研修を開催していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は実施しているが、一部の職員の参加にとどまっている。また、地域の方々と、避難訓練について等の協力体制作りを始めたところ。	火災と地震の避難訓練を実施し、当日、緊急連絡先や非常持ち出し袋等についても口頭で伝えている。当日参加できない職員には、後日回覧により周知している。3日分の水、食料等の備蓄を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員のストレスコントロールを意識して行っているが、プライバシーへの配慮が不足している場面もある。個々に指導を行っている。定期的な指導を継続していく必要がある。	研修を実施し、管理者が職員に声かけすると共に朝・夕礼や会議で確認している。利用者の意思を尊重し、無理強いはいしない。排泄等の申し送りは隠語を使い、記録類を利用者の近くに置かない等の配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを意識し、気持ちをくみ取れるよう、また話しかけやすいよう、出来る範囲で席につくようにしている。また、選択の機会を設け、自分で決定できることを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々のやりたいことを聞き取りし、生活に生きがいを感じてもらえるように関わっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介助が必要な方で、更衣の際に確認しながら行っている方は少ない。身だしなみについては、共有スペースに出る際や外出の際、お祝い事の時には特に意識して取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや盛り付け等に参加してもらっている。配膳や片付け等も含めて、複数の方に協力して頂きながら行っている。	利用者の気持ちに合わせた声掛けや感染対策をしての盛り付けは、見本を用意することで、自分のできるように工夫している。食事が楽しめるように、食事の内容を伝え、理解して食べてもらえるように配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立に基づいて調理している。また、個々に応じて食事量は調整している。水分摂取を促さないと進まない方には、特に意識して進めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを推奨し、難しい方はうがいや口をゆすいでもらうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はトイレでという意識のもと、個々の排泄パターンの把握に努め、失敗を減らすための取り組みは行っている。	パッドの種類や支援方法について話し合っている。利用者の習慣やパターンを把握し、早めに声かけして、トイレでの排泄に繋げている。声かけは耳元でし、失敗した時は、周りに気付かれないように対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分、体操等を工夫することにより、自力で排泄できるよう意識して取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は午前午後どちらでも入れるよう対応している。また毎日湯を張り、曜日を決めずに、少なくとも3日に1度は入ってもらえるよう働きかけている。	湯温や入浴時間は、利用者の好みや体調に合わせている。シャワー浴の場合は、寒くならないように室温を上げ、タオルをかけておこなう。羞恥心への配慮として、同性介助や職員の見守り位置等を考慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の湿度や温度、環境整備に努め、安眠できるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時は、職員各々が把握に努めている。また、申し送りノートや申し送り時に、薬の情報共有も意識して行っている。個々の把握力に関しては個人差がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	他者との関りを意識し、ともに取り組むことができるように声掛けしている。また、集中して取り組むことができる方には、少しずつ難度を上げてチャレンジしてもらっている。(塗り絵、刺し子、計算問題等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ゴミ捨てや散歩、近隣への買物であれば、比較的行えている。個々に外出する際は、事前に計画を立て、職員配置を整えてからでないと、取り組むことは難しい。(通常時)	現在コロナ禍のため、散歩は控えているが、裏庭で外気浴をしている。ベンチに座り気持ち良さそうに過ごす利用者の姿が見られる。畑では野菜や花の世話をしている。月に1度の移動パン販売は、戸外に出て自分でパンを選ぶ機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を持つことが出来る方には、その支援を行っている。お金があることで混乱の大きい方には、適切な金額での支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に制限は設けていないため、携帯電話をお持ちの方は自由にして頂いている。年賀状やお盆の時期は、職員からの働きかけによりあて名書きをして頂いて、ご家族あてに葉書を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔であることを意識している。また、季節感も多く取り入れ、目で楽しんで頂き、季節感も感じて頂けている。ただ、全体的に配慮すべきことができていないことも多くあるため、環境整備は課題である。	夜の照明は、段階的に暗くして、利用者自身が就寝時間だと分るようにしている。手の届く所に塗り絵の色鉛筆や本等を置き、自分がしたいことを自由にできるようにしている。職員と利用者で装飾を作り、廊下やフロアに貼ることで、季節感を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル配置や座席配置、ソファを廊下に置くなどして、共用スペースにしながらも、個々に過ごすことができるよう意識している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた物を持ち込んで頂けるよう説明している。入居後は、個々から聞き取りのもと、好みの物品を適宜購入し、その方の居室作りを大切にしている。	持ち込んだ画材を使い、絵を描いている利用者もいる。持ち込み品が少ない場合は、誕生会のプレゼントでカレンダーや時計を用意し、居室が無機質にならないように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにはわかりやすく大きく表示している。また、各居室は個々のネームプレートを作成しわかりやすくしている。施設で生活しているが、他人の世話になり過ぎないで生きていけるよう、関り方も考えながら対応している。		